



報道機関各位

平成30年10月6日

健康福祉部健康増進課
担当者 野路、上藤
電話番号 0776-20-0351
県庁内線番号 2625、2626

腸管出血性大腸菌感染症の発生について（平成30年第20,21報）

1 概要

平成30年10月5日、福井健康福祉センター管内の医療機関から丹南および福井健康福祉センターに対し、患者から腸管出血性大腸菌O157およびベロ毒素を検出した旨、届出があった。

このため、丹南および福井健康福祉センターは、患者の健康状態、行動等についての調査を実施した。

本件は、本日発表の食中毒に関連した事案である。

2 患者等の状況

(20報) ① 患者 丹南健康福祉センター管内在住の20代 男性 1名

症状：腹痛、水様性下痢、血便があったが、現在は回復している。

発症日	初診日	入院	退院	便検査	
				便検査開始	ベロ毒素確認
10/1	10/2	—	—	10/2	10/5

② 接触者の健康状況

2名症状なし。（2名に対し検便実施）

(21報) ① 患者 奥越健康福祉センター管内在住の20代 男性 1名

症状：腹痛、水様性下痢、血便等があったが、現在は回復してきている。

発症日	初診日	入院	退院	便検査	
				便検査開始	ベロ毒素確認
10/2	10/3	10/3	—	10/3	10/5

② 患者 奥越健康福祉センター管内在住の50代 男性 1名

症状：腹痛、発熱、血便があったが、現在は回復してきている。

発症日	初診日	入院	退院	便検査	
				便検査開始	ベロ毒素確認
10/3	10/4	10/4	—	10/4	10/5

③ 接触者の健康状況

2名症状なし。（2名に対し検便実施）

3 発生に伴う対応

丹南および福井健康福祉センターにおいて、次の措置を実施した。

- ① 本人の健康状態、行動および喫食状況を調査
- ② 衛生教育の実施
- ③ 自宅等の消毒の指示

4 腸管出血性大腸菌感染症の発生状況

		平成28年	平成29年 (全国は暫定数)	平成30年 (全国は9月23日現在)	備考
全 国	届出数 (人)	3, 6 4 7	3, 8 6 2	3, 1 1 7	昨年同期： 3,093 人
福井県	発生件数 (件)	1 9	2 7	2 1	昨年同期： 21 件
	届出数 (人)	2 9	3 0	2 7	昨年同期： 24 人
	有症者 (人)	2 0	2 3	2 0	昨年同期： 18 人
	無症者 (人)	9	7	7	昨年同期： 6 人
	初発 (月日)	3/25	5/17	1/31	
	最終 (月日)	11/28	10/31		

※ 腸管出血性大腸菌感染症の発生がありましたので、以下のことを徹底してください。

感染を予防するには、各家庭において次の事項に留意することが大切です。また、腹痛や下痢、血便等の症状がある場合には調理等を行うことを控え、早めに医療機関を受診しましょう。

- ① 少量の菌で感染が成立することから、手洗いが最も重要です。特に調理や食事の前、用便後や便の始末をした際には十分に手を洗いましょう。
- ② 調理器具は食品ごとにこまめに流水で洗い、熱湯をかけておきましょう。
- ③ 生野菜は流水でよく洗い、肉類や加熱する食品は十分に加熱（中心部を75℃で1分以上）しましょう。
→生食用の牛レバーおよび豚肉（内臓を含む。）は提供・販売されていません。
- ④ 焼肉をする場合は、生肉専用の箸を用いるなど、箸の使い分けをしましょう。